



議会だより

いせはら

第71号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会
印刷 株式会社 徳奄美新社印刷

祝世界自然遺産登録
「宝ランド祭り」

令和3年12月5日(日) なくさみ館にて



令和3年第3回定例会(9月7日~17日) 議案・審議・議決結果

議案番号	件名	議員名(議席番号順)														議決結果
		杉山肇	牧本和英	西彦二	佐田元	清平二	岡林剛也	牧徳久	上木千恵造	永田誠	前徹志	明石秀雄	樺山一	美島盛秀	福留達也	
議39	伊仙町税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議40	伊仙町肉用牛特別導入事業基金条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議41	伊仙町過疎地域持続的発展計画の策定	○	×	×	×	×	—	○	○	○	○	○	×	×	欠	可決
議42	訴えの提起	○	○	×	×	○	—	○	○	○	○	○	×	○	欠	原案可決
議43	町道の一部変更	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	欠	原案可決
議44	令和2年度伊仙町上水道事業会計の利益処分	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	欠	修正可決
議46	令和3年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	欠	原案可決
議47	令和3年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	欠	原案可決
議48	令和3年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	×	欠	原案可決
議49	令和3年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	×	欠	原案可決
認1	令和2年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	○	×	×	×	欠	×	○	○	○	○	○	×	×	—	不認定
認2	令和2年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	×	○	—	認定
認3	令和2年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	×	○	—	認定
認4	令和2年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	×	○	—	認定
認5	令和2年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	×	×	—	認定
認6	令和2年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	○	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	×	×	—	認定
議45	令和3年度伊仙町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	修正可決
陳1	馬根小学校存続に資する住宅政策に関する陳情	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	—	採択
発5	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方財源の充実を求める意見書	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決

【表の見方】議：議案 陳：陳情 承：承認 発：発議 ◎：全会一致 ○：賛成 ×：反対 欠：欠席 —：表決権なし
 ※福留達也議員は議長職のため特別多数議決以外の議案については、表決(賛成、反対の意思表示)権はありません。

令和3年 第3回定例会

一般質問



美島 盛秀 議員

大久保町長の6期目の出馬について

問 政治家は、政治理念と政治倫理こそが基盤であると考えるが町長の見解を問う。

また、1期目に当選した時の政治理念は、自由連合代表の徳田虎雄先生の「みかん一個もらわない」「生命だけは平等だ」である。このことが大久保町長の基盤になっていたと思うが、見解を併せて問う。

(町長)

答 私の政治理念は、まちなりをより豊かにするということである。また、「生命だけは平等だ」ということであるが、私は大学卒業後すぐに徳洲会に入り昼夜を問わず命を守るために悪戦苦闘してきた34歳までであり、県議会議員時代にもそのことを訴えつづけてきた。

問

当時の月刊誌潮風出版に掲載された取材の対談で「職員採用に多額の現金のやりとりがあるとの噂が町民に不快感を与えている」と言っていたが、今の見解を問う。

(町長)

答 こういうことがあつてはならないと私は思いこの20年間努力をしてきた。街頭での噂話があるような事でしたが、そのような噂話はまだ出ているのだなと思うぐらい、町民の私に対する信頼というのは、まだまだだなどと思つている。

問 「目に余る特定業者とに關し当時の大久保町長は、伊仙町にはびこる権力の腐敗構造を一掃しなければ全国最下位とも言われる所得の低迷から抜け出せず、人口流出にも歯止めはかけられない。また、私の前に立ちただかつて邪魔をする者を私は決して許しません。」と言っているが、現在の町長の見解を問う。

私の政治理念は、まちなりをより豊かにするということである。また、「生命だけは平等だ」ということであるが、私は大学卒業後すぐに徳洲会に入り昼夜を問わず命を守るために悪戦苦闘してきた34歳までであり、県議会議員時代にもそのことを訴えつづけてきた。

(町長)

答 権力の腐敗というのは、権力をまちづくりのためでなく、一部の町民と結託して予算を動かすとかいう意味があるかもしれないけれども、そういうことがあつてはならないことだと思つう。一部の業者と癒着して、その会社のために利益を誘導するとか、そういうことは一切やっていないわけですので理解していただきたい。伊仙町が、常に対立のままであつては良くないという意味でこのような表現になつたと思つう。

6期目に向けた重点政策について

問 糖業振興について、堆肥センターの1,300万円の未収金問題は、その後どうなっているのか問う。

(町長)

答 現在、本人と連絡が取れなくなっている状況であるが、この問題は私が責任を持って必ず解決できるよ

う全力で取り組んでいく。

問

水産振興について、離島漁業再生支援交付金において備品未納問題が起き、交付金が大幅に減額されたが、漁業振興に影響はないか問う。

(経済課長)

答 予算の枠組みがあるため、思うような活動ができていないのが現状であるが、稚魚の放流や資源の確保に努め、再度漁業集落として活動したいという漁民が増えるような基盤づくりを我々としては推進していきたい。





佐田 元議員

は 農業支援センターの今後

問 当該施設について、何名の職員で業務を行っているのか。また、現在研修生の募集を募っているが、誰がどのようにして研修させていくのか。今後の運営について問う。

(町長)

答

3年近く頑張っていただいた所長が体調不良ということで3月末に退職され、現在8月より新たな所長が就任しており、所長と事務員2名体制で業務

を行っている。まだまだ成果は出ていない状況であるが、できることはたくさんあると思うし、今後も農家の方々との連携を取りながら進めていきたい。

(経済課長)

今年度の事業計画として、通年における土壌分析、また分析結果に基づく土づくりの推進、それに伴う反収向上及び病気の軽減の推進等を図っていく。また、町民向けの農業塾の開催や、キノコにじいろクラブと連携した農福連携事業、Aコープ横の農場にお

いて各種品目の展示圃場設置、そして研修生の受け入れ等を計画している。

問

なぜ研修生が入ってこないのか、担当課である経済課として勉強会や検証など今後研修生が入る体制づくりについて追及したことはあるのか問う。

(経済課長)

答

研修生不在ということでは課内でも話し合いを行っている。また、県が発行する機関誌等にも情報として掲載頂いているし、農業大学校の方でも告知等して頂いている。

昨年度は、1ターナー者2名とコンタクトを取っていたが、1名はご家庭の事情で受講できず、現在はもう1名の方と打ち合わせを行っており、様々な方面から積極的に研修生の募集を行い、本町の農業振興発展に寄与できる様、取り組んでまいりたい。



農業支援センター試験圃場 (伊仙)

町長の選挙活動について

問

大久保あきら後援会の討議資料において、公的立場の方々が写真で写っているが、この方々は職務上の地位を政党又は政治的目的のために利用してはならないと思うが、この方々に指導等されたのか問う。

(選管書記長)

答

県選管より、選挙管理委員会には指導や取締りを行う義務がないと

いうことで指導を受けている。したがってこの問題を立件するのであれば、写真に写っている方がその写真を利用、または掲載したというところで警察へ申し出た場合は警察が捜査を行うこととなっている。

(地域福祉課長)

議員がおっしゃるよう7月下旬に町内の方から民生委員と思われる方がポスターに写っている旨の問い合わせがありました。それを受け、社会福祉協議会へ確認を取り、8月の協議会において各委員への注意喚起、また紛らわしい行為は慎むよう指導をしたところである。

(町長)

選挙に関する知識不足であったが知らなかったで済む問題ではなく、指摘されたことを謙虚に受け止め、後援会とも共通理解を持ってやっていきたい。

農業振興について



牧本 和英 議員

問

死亡獣畜処理について、平成30年度までは闘牛牛も含め、4歳以上の死亡牛は、徳之島中央家畜保健衛生所がBSE検査後、焼却処理を行い、焼却費として一頭当たり3万4,400円でそのうち約半額は国の助成により返金されていた。また、4歳以下の死亡牛は徳之島保健所の特別な許可をもらい農家の所有地などに埋却されていたが、現在法改正により平成31年4月1日より、全ての死亡牛の焼却処理が義務付けられたため、令和3年7月1

日民間の焼却施設が稼働を開始した。家畜保健所焼却施設では、8歳以上の死亡牛のみBSE検査後、焼却処理され、国の助成金も下ります。8歳未満の死亡牛は、民間の焼却処理施設にて焼却処理されるが、国の助成金はなく、処理代金は1歳以上が税別6万円という高額なため、農家の負担はかなり大きい。民間業者は約7千万円かけて焼却処理施設を造っており、維持管理のために高額な処理費用になると思われる。また、徳之島三町肉用牛振興会が行政及びJAへ補助金を出していただけけるよう要望書を提出している。

答

(町長)

農業振興の死亡獣畜処理の要望書は、大変価値のある要望書だと考えている。町としても、三町、JA等との連携を取りながら、前向きに考えたい。今まで埋却という形で処理してきたことは、我々行政にとっても他の市町村に比べて、大変遅れていることなので、前向きに取り組んでいかなければならないと考えている。

(経済課長)

特別埋却処理が禁止になり、焼却費用が農家の負担となつてきていることは重々承知している。現在、JAの方と振込方法や助成の方、事務について打合せを行っている段階であり、費用の一部助成につきまして12月議会の補正予算のほう

で計上させていただきたいと思つている。また、この助成につきましても、7月1日から焼却施設が運用開始されたということで、7月1日まで遡及措置を取りたいと考えている。



セリ市の様子 (徳之島中央家畜市場)

有害鳥獣対策について

問

イノシシは繁殖能力が高いため、個体数を減らす目的で、期間限定での報償金増額など関係機関と協議し、集中的に駆除するなどの考えはないのか問う。

(経済課長)

答

増額については、三町担当課長と協議していきたい。また、さとうきび植え付け後の余った種苗の放置、バレイシヨ収穫後の残渣の放置等により餌付けに近い形で管理されている圃場が目立つため、根本的な改革を行いながら、イノシシを寄せつけない対策も行つていきたいと考えている。



イノシシの食害を受けたさとうきび畑



清 平二 議員

職員採用試験について

問 透明性と柔軟性のある行政運営を行うために、職員採用における明確化とはどのようなことなのか問う。

答

(総務課長)

本町では、採用試験1次試験として教養試験及び性格特性検査並びに職場適応性検査を実施している。試験日程についても、鹿児島県町村会が示す統一試験日に合わせて実施し、問題や採点に関しても町村会を通じて、日本人事試験

研究センターを利用している。

二次試験については、個別面接試験を実施しているが、近年職員採用について、全国的にも人間性重視の傾向が強くなってきていると等もあり、本年度は三次試験において、個別、もしくは集団面接を実施するなどの人格を重視したいと考えている。

問

採用試験要項(建築・土木の専門職)に「令和4年3月卒業見込みの方は含まれない。」とあるが、文言として適切であったか問う。

(総務課長)

答

令和4年3月卒業見込みという方については、高卒以上としているが、その試験の合格というところが見込めないものというところで、その分は含まれないという表現である。また、それまでに試験が通る、通らないという部分もあるが、次回以降改善すべき点は見直していきたい。

問

障害者雇用促進法により、障害者の雇用が義務づけられているが、現在の雇用率を問う。また、様々なハンディキャップがありながら一生懸命に頑張っている方々がたくさんいるが、是非特別枠を設け採用していただきたいと思うが町長の考えを問う。

(総務課長)

答

法定雇用率2・6%に対し伊仙町は1・8という状況である。

障害があるなしに関わらず、全ての町民が活躍する

まちづくりを目指し、給与体系や勤務時間などを明確にし、雇用促進に取り組んでいきたい。

新型コロナ対策について

問

新型コロナウイルス感染症で濃厚接触者となった方々の検査費用は公費負担となるが、自己希望で検査を受ける方は2万5千円の自己負担となっている。早期発見や家族、職場を守る観点からそのような方々に対しても町の予算を投じ個人負担の軽減ができないのか問う。

答

(健康増進課長)

今現在の対応として、発熱外来で病院受診される方に関しては、2、3千円の個人負担で、残り7割分は保険適用となっているが、無症状や個人的に検査を希望される方に関しては保険適用外ということでご全額自己負担扱いになっている。

要望

ぜひコロナ感染症対応臨時交付金などの予算を活用し、町民の命を守ることを最優先に取り組んでいただきたい。

次回の定例会は12月です!!

次回の定例会(第4回)は12月7日(火)からを予定しています。ネット配信も行なっておりますが、ぜひ、生の議会を傍聴してみませんか。手続きは簡単で、議会の当日に傍聴席入り口の受付票に、住所、氏名を記入していただくだけです。詳しくは議会事務局までお問い合わせください。



電話番号86-3111(内線16番)



永田 誠 議員

町道・農道の補修及び改修について

問

機械大型化が進みバレルベラーなど通行に支障を来している箇所が散見されるが、農業生産額50億円を掲げている伊仙町として、これらの状況を把握できているのか。また、今後の対策について問う。

答

(町長)

近年非常に農業の大型機械化が進んでい

通ってみると、道路の幅員が狭い農道など、大型トラクターの通行を考えると非常に苦労するのではないかとと思われる。今後、土地改良事業の可能性も残しながら、順次改修等を行ってきたい。

問

喜念集落の権現神社から山手に上がる町道だが、今後の改修計画はないか問う。

答

(建設課長)

ご指摘の箇所は喜念浄水場へ行く道であり、令和4年度に改修計画をし

ている。また、地権者等の了解が得られれば拡幅する予定である。



令和4年度に計画されている喜念白井線 (喜念)

未来ある若者たちへの支援を

問

コロナ禍や少子高齢化が進む中、今後伊仙町においても様々な問題が懸念されている。その中でも、若い世代の人口流出防止対策として、本町独自の奨学金制度等を創設し、未来ある若者たちへの支援ができないか問う。

答

(未来創生課長)

本町の政策の柱としても人口増加を掲げてお

り、奨学金制度によって町の将来を担う人材育成に取り組むことは非常に重要だと考えているため、ふるさと納税を活用できないかなど前向きに検討していきたい。

要望

医療関係の大学等でよく聞かれる御礼奉公などを参考に、農業政策として農業大学への進学支援や保育士、また介護関係への進学支援などを推進し、島に若い世代の子たちが戻ってきて働くことができる環境づくり、システムづくりを行うためにもぜひ奨学金制度を創設し人口流出防止策として取り組んでいただきたい。

6期目に向けた6つの重点政策について

問

文化系(島唄など)の大会等)及びスポーツ大会出場に伴う旅費の支援拡充に取り組むとあるが、詳細について問う。

(教委総務課長)

答 教育委員会では主に中体連を担当しており、

中学校のスポーツ大会出場に伴う助成を毎年100万円予算計上し補助を行っている。事務局としては町内3中学校が持ち回り制で行っており各種大会へそれぞれ配分されている。

(社会教育課長)

町内から多くの要望が寄せられており、今回伊仙町の各種スポーツ競技大会出場補助金交付要綱の交付上限額の増額改正を行った。また、文化系として、文化協会が関わるものについては、文化協会への補助金(派遣費)として支出されていると認識しているが、その他については、必要に応じて支援していきたいと考えている。

要望

大会に出場する際には重なる家庭も出てきます。現在の支給方法は、精算払いとなっているため、保護者の負担を考慮し概算払いで対応できるように要望する。

議会の動き

令和3年第3回伊仙町議会定例会における諸般の報告(議長の動静)
 動静期間: 令和3年第2回定例会(6月11日)以降の分

月	日	行事名	場所	月	日	行事名	場所
令和3年6月	16日	天城町議会新議長就任挨拶来庁	議長室	令和3年8月	31日	令和3年第3回定例会告示	
令和3年7月	13日	正副議長研修会(鹿県町村議会議長会主催)	鹿児島市	令和3年9月	2日	議会運営委員会	議会委員会室
	21日	令和3年度第1回徳之島三力町議会議員連絡協議会役員会	議会委員会室		7日	令和3年第3回定例会開会	議場
	26日	世界自然遺産登録視聴会(鹿県環境林務部主催)	天城町防災センター	※掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。			
	30日	令和4年度公立高等学校の生徒募集定員策定等に係る地区説明会	天城町防災センター				

故 勇元寛重氏に特別叙勲



元伊仙町議会議員として、地方自治の育成発展に貢献された勇元寛重氏(令和3年4月20日逝去・享年96歳)に、このほど特別(死亡)叙勲の旭日単光章が授与され、9月14日の本会議前に議会議事堂において、ご家族(勇元孝治氏)に叙勲の伝達式がおこなわれました。

勇元氏は、昭和59年に伊仙町議会議員に初当選以来、平成8年の任期満了まで3期12年間にわたり在職し、卓越した識見と指導力をもって徹頭徹尾の姿勢で町勢発展に尽力されました。

※特別(死亡)叙勲は、公共のために貢献された各界の功労者のうち、春秋叙勲で勲章を授与されていないうちに亡くなられた方に授与されます。

編集後記

月日の流れは速いもので今年もまた師走を迎え、令和3年が終わろうとしております。今年4回発行しているこの「議会だより」も、現在の議員の任期中最後の発行となります。

この4年間の議会活動に対する叱咤激励、ご理解とご協力、「議会だより」に対する指摘や助言・要望等々、数多くの気づきを頂きましたことに対し改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスもまだ終息が見えない状況の中、つい先日また新たな変異株(オミクロン株)も発生しており、日本国内でも第6波が懸念されております。

さて、今年一年を振り返ってみますと、何と云っても我々の念願であった「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録ではないでしょうか。身近にあった島の自然がこれだけの評価を得るためにご尽力いただいた関係機関並びに関係者の皆様には感謝申し上げます。改めて敬意を表します。コロナ禍によって停滞した経済を活性化させるべく、この大きな追い風を数年間で終わるような一過性のものにせず、永続的な仕組みにまで仕上げなければなりません。この仕組みづくりの中心を担うのは町長はじめ執行部の皆さんであります。我々議会や町民の皆さんも絶えずその動向を注視し、支援をしながらも時にはブレーキを踏んだり、変更をさせなければなりません。そういった意味でも町民の皆さんと議会も豊かで暮らしやすい伊仙町であるにはどうしたらいいのだろうか? という議論を頻繁に行っていきいたいものであります。

来月1月には議会議員選挙が行われ、新たな議員構成になると思われませんが、伊仙町の更なる発展のため、議会に対する意見や要望を引き続きお願い申し上げます。中長期的な様々なテーマでの議論に数多くの町民の皆様に参加いただけることもお願い申し上げます。編集後記といたします。

文責 佐田 元

議会広報編集委員会



- 委員長 前 徹志
- 副委員長 杉山 剛也
- 委員 岡林 剛也
- 委員 上木 千恵造
- 委員 佐田 元